

市長総括説明から

9月2日、平成23年第3回市議会定例会を開会しました。東日本大震災被災地支援や災害初期の対応のあり方等を報告した後、当面する市政の諸課題ならびに提出議案の主なものについて説明しました。その概要をお知らせします。

安全に安心して暮らせるまち

津波対策

津波想定の見直しを県にお願いしていますが、県はまず太平洋側の見直しを行う方針です。そこで、市は、現在の想定津波高の2倍の津波を想定した津波避難訓練を行い、避難場所・経路・時間等を検証します。

迅速な避難のために、全国瞬時警報システム「Jアラート」に城崎地域を接続します。これにより、港・竹野地区に加え、城崎地域の住民にも津波情報等緊急情報を防災行政無線から自動的に伝達するこ

とができるようになります。

市立高橋診療所の運営

高橋診療所は、指定管理方式で運営していますが、赤字経営が続いていることと医師の高齢化を理由に、運営を市に移管してほしい旨の申し出があり、検討を行っています。

ドクターカー運用の見直し

豊岡病院ドクターカーは、天候不良時のドクターヘリの補完としてスタートしました。しかし、同病院の救急医の増員が図られたため、ドクターカーをドクターヘリと併用

人と自然が共生するまち

円山川下流域及び周辺水田エリアのラムサール条約湿地登録

登録に必要な「国指定鳥獣保護区及び特別保護地区の設定」は、円山川下流域と同意を得た6地区を対象範囲とし

て手続きを進めます。そして、来年6月、ルーマニアで開催される第11回ラムサール条約締約国会議「ラムサール条約COP11」での登録を目指します。

て手続きを進めます。

アジア湿地シンポジウム無錫2011への参加

10月、中国で開催される「アジア湿地シンポジウム無錫2011」で、コウノトリの取組みを紹介します。ここでも、湿地登録に向けた本市の動きをアピールしていきます。

北但ごみ処理施設整備事業

7月、都市計画事業認可が告示されました。北但行政事務組合では、今後も任意交渉での解決に努めますが、それでも買収ができない場合に備えて準備が進められています。

豊岡第二清掃センターの早期安定化

埋立てを終了した最終処分場ですが、施設廃止基準に満たない項目があり、現在まで、浸出水の処理を行っています。

持続可能な「力」を高めるまち

水質を安定化させるための複数の対策工法の案がありますが、事前調査や解析を行い、実効性と経済性に優れた対策

を考えます。

エネルギー対策

北但東部森林組合が運営するペレット製造施設が竣工し、豊岡産ペレットの供給体制が整いました。この機会に、個人向けのペレットストーブの補助金制度を導入し、学校への設置も平成25年度までに完了する予定です。

下水道施設の統廃合

将来の市民負担を軽減するため、54処理区を25にする統廃合計画を進め、合わせて長寿命化対策を行う予定です。

魅力ある景観形成の取組み

このため、処理施設のある地元や区長会、総合支所単位で説明会を開催し、おおむね理解を得ました。西気と清瀧は今年度内に統合、供用予定

但東北部温泉の泉源

「たんたん温泉福寿の湯」は、資母地区活性化の中心施設ですが、温泉湧出量が低下し、

近くの湧水を加水しています。そこで、新たに低深度泉源井戸を掘削し、温泉の安定供給を図ります。

中心市街地活性化基本計画の策定

「中心市街地活性化基本計画策定委員会」から報告された中心市街地活性化基本計画素案を踏まえ、8月3日付けで市の計画としました。

北近畿豊岡自動車道和田山八鹿道路

和田山ジャンクションから八鹿水ノ山インターチェンジまでの工事が遅れ、供用開始は来年11月ごろになる予定です。

コウノトリ但馬空港からの東京直行便

しかし、豊岡南インターチェンジまでの工事着手に影響はないと聞いています。

豊岡の景観の価値を再認識

豊岡の景観の価値を再認識し、景観行政への理解を深めるため、「とよおか景観フォーラム」を開催します。

なお、景観計画や景観条例は、今年度中の策定を目指しています。

全日本空輸からは路線開設の前向きな回答は得られてい

ませんが、「地域主体の新規路線開設」募集は継続されているため、引き続き要請していきます。

コウノトリ但馬空港の利用状況は、東日本大震災の影響があります。利用率70パーセントを目指します。

また、10月30日から、夕方便が約1時間半繰り上げられます。市は、運航会社に、ダイヤ変更は事前に地元と協議・調整すること、来年度上期以降のダイヤは現行ダイヤを堅持することを申し入れました。

### ○バス交通対策の取組み

10月からの全但バス神鍋線「上限200円バス」実証実験に向けて、9月に地元推進組織を立ち上げられる予定です。

また、地域主体で運行する「チクタクひほこ」の実証運行が7月に始まりました。「チクタク」は、出石町奥山、但東町資母地域と合わせて3地域となり、いずれも好評です。

### ○「八代集落協定」中山間地域等直接支払補助金返還

第2期中山間地域等直接支払交付金事業で、「八代集落協定」の一部で協定違反があり、市は関係者に補助金返還命令

を行いました。

しかし、返還されない方があり、補助金返還請求の訴えを提起したいと考えています。

一方、八代集落協定の代表者が市に対し補助金返還命令取消請求を求めて提訴されたため、市は応訴しています。

### ■未来を拓く人を育むまち

#### ○「幼稚園・保育所のあり方計画」の事業進捗状況

「(仮称)三方認定こども園」および「(仮称)西気・清滝認定こども園」は、関係法人の理解が得られず、来年度開園はできなくなりました。

寺坂幼稚園と出石幼稚園の再編は、地区民の反対が強く、園児募集時期の10月までに来年度再編に対する最終判断をします。

また、五荘幼稚園・奈佐幼稚園の再編は奈佐地区の了解が得られましたので、今後両地区合同で検討を進めます。

### ○南極地域観測隊関連事業

第53次南極地域観測隊へ職員を派遣しています。今年度は元観測隊員の講演会を予定し、来年度以降は、同講演会に加え、南極にいる市職員が豊岡とテレビ電話で

通信する小・中学生向けの南極授業や、帰国後は、南極に関する同職員による出前講座を小・中学校や公民館で行う予定です。

また、子どもたちから南極で調査や実験をしてほしい内容等を募集し、派遣職員が南極授業やホームページなどで報告する予定です。

### ○高等学校通学区域再編案への対応

県高等学校通学区域検討委員会から、県立高等学校普通科の但馬1学区の通学区域と複数志願選抜制度の導入の考え方が示されました。

市、但馬教育委員会連合会などは、それに反対し、現行どおりの但馬2学区、連携校方式の堅持を求めています。

### ■市政の運営

#### ○「いのちへの共感に満ちたまちづくり条例」の制定

この条例案は、「いのちへの共感」を豊岡のまちづくりの基礎に置くべき基本理念として定めるとともに、いのちへの共感を広げていくための具体的戦略を定めるものです。「命は限られている」「命は支えあっ

ている」という二つの基本視点で構成されています。

### ○情報戦略

7月に3回目の「豊岡エキシビジョン」を東京で開催しました。首都圏のマスコミ関係者や旅行会社の参加者は、年々大幅に増加しています。

9月には、「豊岡エクスカーション」を開催し、実際に見て体感した豊岡を記事にしていただく予定です。

7月8日には、アンテナショップ「コウノトリの恵み 豊岡」を東京のJR有楽町駅前オープンしました。

7月15日から1カ月間、ウェブサイトを「美人時計」を利用した城崎温泉PRを行いました。また、10月には三省堂の文庫本ブックカバーとしおりで豊岡を発信します。

### ○新庁舎建設事業

現在、敷地内では液状化対策として、地盤改良工事を行っています。

また、現本庁舎は、内装や外部建屋を解体し、調査を行い、補修工事をしています。現本庁舎の曳家工事の時期は調整中です。

### ○道路照明の地元移譲

城崎地域の道路照明は、新市の基準では大半が防犯灯であることが判明しました。防犯灯は、集落間に設置以外は、地元で所有し、維持管理をしています。

そこで、必要な修繕等を行った上で、来年度から地元で維持管理していただきます。

○基幹情報システム再構築  
オープン系パッケージシステムによる基幹情報システムの再構築に取り組んでいます。今年度、来年度で21業務の再構築を行うこととし、現在データの移行作業を行っています。

現在のようにホストコンピュータを使用し続ける場合と比較すると、今年度から平成34年度までで約11億5700万円の経費削減になる見通しです。

○定住自立圏形成協定  
中心市である本市と但馬の2市2町が1対1で個別に協定を締結するもので、9月の締結を予定していましたが、重点事項の周産期医療体制が検討中であることから、12月締結を目指します。

その後、「定住自立圏共生ビジョン」を策定したいと考えています。